

校外取材

FISE 広島で開催

坂の上通信

平成三十一年四月二十五日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)



晴天の中、大勢の観衆で賑わいを見せた会場(パノラマ観戦席から撮影)

旧広島市民球場跡地で

FISE(ファイセ)とはBMX、スケートボード、ボルダリングなど、都市型スポーツのフェスティバルである。旧広島市民球場跡地において4月19日(金)〜21日(日)の日程で開かれ、新聞部は最終日の様子を取材した。

当日は汗ばむほどの陽気で、大勢の観衆が会場を訪れていた。美高新聞文化部は、同じく取材に来ていた崇徳高校新聞部、呉三津田高校新聞部とともにメディア入口より入場。各会場では、観戦スペースとともに様々な体験イベントも用意されており、大勢の人を楽しませていた。フードスペースでは

広島原産の牛肉や牡蠣、日本酒、広島ならではの好み焼きや汁なし担担麺などの店舗も開かれており、まさに「お祭り」の雰囲気を感じることができた。

BMX女子 激しい戦い

会場では、BMXやスケートボード、ボルダリング、バルクール、アグレッシブインライン、ブレイクダンスなど数多くの種目の会場が設置されていた。まず取材日に大きな盛り上がりを見せていたのは、BMXフリースタイルパーク。大小様々なジャンプ台や斜面・壁を使いアクロバティックな動きをする自転車競技である。審判団の採点基準は技の難易度・完成度・高さ

を元にトリックの組み合わせ「コンボ数」の多さを重視。難易度の高いトリックでも、ランディング時に転んでしまうと25%減など細かく規定されている。難易度の高いトリックをミスなく、どれだけメイクできるかで勝敗が決まる。競技時間は1人1分間でスピード感があり、観客は皆その試合に釘付けであった。技に失敗する選手もいたが、それでも選手には観客から応援の拍手が送られ、一体感のある観戦だった。

優勝はアメリカの選手

優勝はアメリカの選手。日本人選手では、大池水杜が上位と僅差の4位に入った。

ボルダリング女子 決勝 日本勢が独占

BMXのすぐ側に設置されていたのはボルダリング会場である。こちらも熱気につつま



大いに盛り上がったBMX(写真上)とボルダリング(下)

パノラマ観戦を体験

新聞文化部は、会場でパノラマ観戦の体験も行った。パノラマ観戦とは、高所作業車に乗車して、高所からスポーツを観戦できる仕組みのことだ。この体験には大会のオフィシャルスポンサーである(株)AKTIが協力している。

予約した時間に作業車に行くところ、スタッフが事故防止用のハーネスやヘルメットをつけてくれた。その後、乗っている箱は高さ12mまで上昇。普段高所から見渡せない広島市内や、それぞれの競技に出場している選手達の熱戦が一望できた。紙面に載せ



会場に設置された高所作業車

ている写真は、このパノラマ観戦席から撮影したものである。

東京オリンピックの正式種目にもなっているボルダリングは、スポーツクライミングの一種で、最低限の道具(シューズとチョーク)で、制限時間内に高さ3〜5mの壁面を登るスポーツ。当日は決勝戦で、日本選手が占め

る中、より一層の熱い戦いを観戦できた。途中でホールドから落ちて、最後まで諦めずにコースを登り切るその姿に、会場からは大きな声援と拍手が起こっていた。

決勝戦で優勝した中川瑠選手(15)はインタビューで「ここまで

報道関係者として

今回の取材に当たっては、事前に申請を行い「プレスパス」を発行した。このパスにより報道関係者しか入らないスペースに入り、様々なインタビューを行うこともできた。

IOC委員である渡辺守成さんからもお話をうかがった。



指技の応酬 eスポーツ

エキシビションとして、eスポーツ大会がNTTクレドホールを中心に開催された。新聞部では、こちらの会場にも足を運び取材を行った。

eスポーツは「エレクトロニック・スポーツ」の略称。主にコン



真剣にモニターを見つめるプレイヤー

ピューターゲームによる対戦をeスポーツ競技として捉える際の名称として使われる。

今回のエキシビションでは、サッカーゲーム「ウイニングイレブン2019」や格闘ゲーム「ストリートファイター」またスマホア「パズル&ドラゴンズ」などの大会が行われていた。

新聞部が取材したのは、「ストリートファイター」の予選。会場は熱気に包まれ、子ども連れを含む大勢の観客が訪れていた。参加選手の一人は、eスポーツの魅力として「eスポーツは対人戦勝てるようになった時や、思ったように技が入ったときには爽快感がある。また勝ち続けることでランクが上がるため、その点でも達成感が味わえる」と語っていた。

記者も実際に体験してみた。準備は簡単で、

フェンシングを体験

会場の一角では、派手なマイクパフォーマンスと歓声があふき渡っていた。自動車の蓄電池機能を使い、フェンシングのデモンストレーションを実施しており、同時にスマートフェンシングの体験もできるコーナーだ。

スマートフェンシングとは、スポンジ製の剣と導電ジャケットを使って、誰でも安全・簡単にフェンシングを体験できる新しいスポーツだ。ルールは簡単で、対戦相手が着ている導電ジャケットに、自分が触れると得点が入る。3ポイントを先取した方が勝者となる。万一年や顔に当たっても安全だ。



初めてのフェンシングにやや緊張気味の新聞部員

ゲーム性もシンプルだがスピード感があり、誰でも楽しめるスポーツだということが体感できた。

会場にいたフェンシング選手の大谷謙介さんは「フェンシングは先に触れた方が勝ちとなるが、その駆け引きは奥深く、とても楽しい。海外の人と楽しめるのが魅力だと思つ」と話してくれた。

屋外エアコン

ダイキンより 新発売

屋内で冷風を出している機会を発見した。(株)ダイキンが開発した屋外型エアコン「アウトターワー」である。近年異常な暑さで熱中症にかかる人が多いため、対策として開発したそうだ。

スリムなデザインのエアコンから気持ちの良い風が流れており、記者も涼むことができた。冷風は本体周囲の約3mまで届く。コンセントをつなぐだけで設置が可能で、雨の日でも使用することが可能だ。

今後は、音楽フェスなど野外イベントでも設置を予定しているそうだ。

会場スタッフの一人として、本校卒業生の田中まりなさんがいらつした。

田中さんは、大学卒業後(株)マッシュアルコーポレーションに就職し、広島市内でイベントスタッフとして働いている。

外に出てアクティブな仕事に就きたいと考えていた田中さん。学生時代にアルバイトでイベントのスタッフを務め「この仕事が自分に合っている」と感じたことが就職のきっかけだそう。マッシュアルコーポレーションではイベント企画やブース設置、ゲータリング車の手配など

スタッフに卒業生発見!

行っている。フードフェスティバルや商業イベント、住宅展示場などで他のイベント会社や派遣会社と共に活動しているそうだ。

「これからの目標は、仕事で自ら動けるようになること」と笑顔で話してくれた。



偶然会えた卒業生田中さん

広島県知事 湯崎英彦氏インタビュー

今回アーバンスポーツをご覧になって、どうお感じになりましたか。

若い人達にすぐ来ていただいで、盛り上がりつつあるな、という印象ですね。それから選手の皆さんもすごくハツスルして、世界最高レベルの技を見せていただいでいるので、若い人達がそういったものを見る機会になつてきているのもすごくいいなと感じました。

どれもみんな凄いですね。それぞれ違った面白さがあります。ボルダリングなら頭を使って登っていったり、BMXのフリースタイルなら凄じジャンプで狙ったところに飛んでいくところ、バルクールも道具を使わず自分の自重と感性だけで軽々と動いていくところなど、それぞれのスポーツの面白さというのがあるなと思います。

広島で開催したことについてどうお考えですか。

アーバンスポーツは、日本だとまだまだ馴染みが薄いです。でも世界的には流行つていて、新しいカテゴリーのスポーツです。日本の流行のきっかけを広島でつくることが出来たらいいと思うし、広島がアーバンスポーツの聖地になつたらいいなと思っています。

復興大会ということでもグ

復興大会ということでもグ

復興大会ということでもグ

復興大会ということでもグ

復興大会ということでもグ

復興大会ということでもグ

復興大会ということでもグ



心地よい冷風を浴びながら説明を聞いた

編集後記

会場内は熱気であふれており、とても楽しかった。このようなイベントが広島で開催できて良かったと思う。(木村京珠)

このような大会を取材できたのは、非常に貴重な体験だった。(増谷帆香)

